

症例報告（日本呼吸器学会雑誌）

【表題】

画像所見で後縦隔腫瘍と鑑別が困難であったウエステルマン肺  
吸虫症の1例

【著者名】

赤池公孝<sup>a</sup> 岡本真一郎<sup>a</sup> 佐伯祥<sup>a</sup> 一安秀範<sup>a</sup> 河中功一<sup>b</sup>  
坂上拓郎<sup>a</sup>

所属機関名：

a 熊本大学病院 呼吸器内科

b 同 画像診断科治療科

【要旨】症例は 59 歳男性．健康診断で胸部異常陰影を認められたため前医受診し，後縦隔腫瘍を疑われ当院を紹介受診した．当院受診時，自覚症状はなかったが，造影 CT と MRI で右肺尖部背側胸膜に接し最上肋間動脈流入を伴う腫瘤陰影を認められた．同部位の CT ガイド下針生検を行い、黄色肉芽腫様炎症反応を背景に虫卵を検出した．血清抗体検査を行いウエステルマン肺吸虫症と診断した．後縦隔腫瘍所見と類似したウエステルマン肺吸虫症の報告は稀で貴重な症例と考えたので報告する．

【キーワード】

ウエステルマン肺吸虫 (*Paragonimiasis westermani*), 後縦隔腫瘍 (Posterior mediastinal tumor)

【短縮タイトル】

後縦隔腫瘍像を呈したウエステルマン肺吸虫症の1例